

高校生多国間交流プログラム
アジアユースリーダーズ 2017
in 東京

実施報告書

AEON 1%
Club Foundation

各 位

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

事務局長 本田 陽生

アジア ユースリーダーズ 2017 in 東京

実施報告書

平素より、公益財団法人イオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
標記の件につき、下記の通り、ご報告申し上げます。

記

【1】事業名：アジア ユースリーダーズ

【2】概 要：アジア 6 カ国からの高校生が一堂に会し、開催地域の社会問題をテーマにしたディスカッションを通じて、価値観の多様性を学ぶと共に、テーマに関する改善・解決策を政府に提案するプログラム。

【3】趣 旨：アジア各国は、今後経済成長により生活が豊かになり、平均寿命が伸長し、

次いで「高齢化社会」になることが予測され、こうした社会においては、

各人がいかにして晩年においても健康な食生活を実行し、生き
生きと活動する事が出来るかが大きな課題であり、国家にとって



↑中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、
ベトナムの6ヶ国で構成されたチームでディスカッション

も社会保障費負担の増大を抑制する上で重要な意味合いを持つ。その重要な対策方法として日本では「食育」への取組みが高まっており、「食育基本法」・「食育推進基本計画」等の法律が制定され、国民運動として毎年 6 月を「食育月間」として定めている。「食」は、子どもたちが豊かな人間性を育んでいく上で重要であることから、「栄養」・「教育」・「文化」といった様々な観点を広く全ての子どもの食育に取り組むよう配慮している。以上の背景を踏まえ、「高齢化社会」の先進国である日本開催となる今回のアジア ユースリーダーズにおいて「食育」やその必要性等についての理解を広め、各自の日常生活での浸透を深めるための必要な取組についてディスカッションするプログラムを実施。

【4】目 的：

- 開催国の環境・経済・社会等の問題についてディスカッション・発表(英語)を行い、多国間交流を通じて価値観の多様性を学ぶとともに同世代の友人ネットワーク構築の機会を提供する。
- 次代を担う若者の社会・環境問題に対する意識の向上、並びに、グローバルリーダーを育成する。
- 現実的な社会・環境問題についての学習、視察、チームディスカッションを通じ、解決に向けたロジックを磨く。

【5】日 程： 2017 年 8 月 21 日（日）～27 日（土）

【6】開催国： 日本（2010 年より毎年開催地を変えながら実施）

【7】テーマ： *食育 *本年度より従来の環境保全、生物多様性から変更

【8】参加者：	中国	8名	マレーシア	7名	
	インドネシア	7名	タイ	7名	
	日本	17名	ベトナム	7名	計53名

【9】プログラム構成：

- 8月21日 出発、オリエンテーション、基調講義Ⅰ、ウェルカム パーティー
- ・ 基調講義Ⅰ
「アジアの国々で今起こっていること、そして持続的な将来をどう我々が創るのか」
東京海上日動火災保険（株）本店営業第六部 部長兼営業第三課長 徳田 元 様
- 8月22日 食育体験学習・食育レクチャー、食育スーパーマーケットツアー、イオン牛久農場視察
- ・ 食育体験学習・食育レクチャー
 - ①カスミ食育の取組み 高野 真由美 様
 - ②ファイブアデイ食育講座実演 杉本 睦子 様
 - ③食育スーパーマーケットツアー カスミイーアスつくば店 店長 松井 章雄 様
 - ・ イオン牛久農場
イオンアグリ創造（株）代表取締役社長 福永 庸明 様
- 8月23日 基調講義Ⅱ、ケーススタディー、特別講義、ディナーセミナー
- ・ 基調講義Ⅱ
日本および諸外国における栄養・食生活の変遷と慢性疾患との関連について
女子栄養大学 栄養学部 食生態学研究室 准教授 林 芙美 様
 - ・ ケーススタディー
タイの子どもの栄養状態と食物摂取と食環境
女子栄養大学大学院 食生態学研究室博士後期課程・タイ保険省保険医療学サイエンティスト
ブンチュウ・ワンナチャノック 様
 - ・ ケーススタディー、グループワーク
インドネシアにおける若い女性の栄養課題
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会事務局 厚生省委託 管理栄養士専門分野別
人材育成事業コーディネーター 中森 正代 様
 - ・ 特別講義
アジアにおける日本の取組み
「SDGsの中で食と栄養を考える：ベトナムにおける試みを中心にして」
公益財団法人味の素ファンデーション シニアマネージャー 栗脇 啓 様
 - ・ ディナーセミナー
「世界無形遺産 和食」
大和屋 三玄 白金台店 料理長 藤田 秀和 様
- 8月24日 体験・ヒアリング活動
- ・ おにぎり、みそ汁、卵焼き調理実習体験（ABC Cooking Studio 横浜ランドマークスタジオ）
 - ・ ヒアリング活動 （イオンスタイル碑文谷にて）
- 8月25日 グループディスカッション
- 8月26日 ①成果発表
- ②ホスト国日本代表生徒への提言引き継ぎ式、表彰ディナーパーティー
- 8月27日 帰国

【10】新しい取り組み：

本プログラム実施にあたり、メーカー及びグループ企業、省庁、教育機関（産・官・学）の多方面から協力を得て実施。

【1 1】1 位チーム成果発表内容：



① E-application (運動アプリ)

方法：健康な生活を送るため、私たちは日々の運動の記録をつけるアプリを活用

効果：アプリをSNSと連携し、他の人と運動量を比較することで、ユーザーは運動に対するモチベーションを上げることができる。

運動をすることで、高血圧や肥満といった生活習慣病のリスクを減らすことができる。

② E-ranks (食品店格付け)

方法：政府がレストランや食品店を、いかに提供する食品が健康かを基準に、上から S, A, B, C, D と 5 段階でランク付けする。

効果：健康的な食品を販売する食品店を人々に知らせることができる。また、食品店はよいランクを得ることで、より多くの客を集めるため、健康的な食品を提供しようと一層の努力を重ねる。

③ E-RA (ライスマンの勇ましい冒険)

方法：アニメキャラクターをデザインし、それをメディアで公開することで、人々が積極的に健康的な食生活を送ることを勧める。

効果：アニメキャラクターを見た人々は、健康的な食生活を送ることを再度心がけることができる。

【1 1】実施活動の様子：

チームビルディング & ウェルカム・パーティー（8月21日）

▶チームビルディング



↑初めて会ったチームメンバーとお互い自己紹介



↑チームリーダーを決めチームの意気込みを発表

国別リーダー数：

中 国：1 名	マレーシア：1 名
インドネシア：0 名	タ イ：0 名
日 本：2 名	ベトナム：2 名

▶ウェルカム・パーティー

主な出席者

駐日インドネシア大使館 特命全権大使 アリフィン タスリフ 様
駐日マレーシア大使館 参事官 イシュリン イスハック 様
中華人民共和国駐日本国大使館 友好交流部 一等書記官 邵 宏偉 様
中華人民共和国駐日本国大使館 友好交流部 二等書記官 呂 新鋒 様
駐日ベトナム社会主義共和国大使館 教育担当一等書記官 ファム クアン フン 様
外務省 アジア大洋州局 南部アジア部 南東アジア第一課 課長 宮本 哲二 様
外務省 アジア大洋州局 南部アジア部 南東アジア第二課 課長補佐 田留 章平 様
外務省 アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課 地域調整官 中原 邦之 様
東京海上日動火災保険株式会社 本店営業第六部 部長 兼 営業第三課長 徳田 元 様
東京海上日動火災保険株式会社 本店営業第六部 営業第三課 花崎 彰子 様
イオン株式会社 相談役 公益財団法人イオン環境財団 専務理事 林 直樹 様
イオン株式会社 執行役 人事・管理担当 高橋 丈晴 様
イオンディライト株式会社 執行役員 グループ経営本部長 兼 事業推進部長 藤井 亮太 様
イオントップバリュ株式会社 取締役副社長 管理本部 本部長 横山 憲男 様
株式会社イオンファンタジー 常務取締役 管理統括 新田 悟 様
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事長 イオン株式会社 取締役会議長 横尾 博 様
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事 鹿取 克章 様
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事 山本 良一 様
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 評議員 イオン株式会社 執行役副社長 財務・経営管理担当 山下 昭典 様



イオンワンパーセントクラブ
理事長 横尾 博

(スピーチより抜粋)

2010年より開始した当プログラムは、アジア各国の学生が一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、関連施設の視察や多国籍チームでのディスカッションを行い、英語を共通言語として議論を重ねることで問題解決や自発的な行動力を高め、グローバルな視点と価値観の多様性を学ぶことを目的に開催を続けております。この機会に和食の調理や食事マナーの体験を通じて、日本の食文化を学び、新たな発見や気づきを得ていただきたいと思います。



駐日インドネシア大使館
特命全権大使
アリフィン タスリフ 閣下

(スピーチより抜粋)

インドネシアには、「知らない人を心にかける人間はいない」ということわざがある様に、他国の事を知り、お互いを理解する事が大切であると私は信じています。各国の未来を担うリーダーとして、皆さんは今後進む分野において功績を残すべく、次世代の地球市民全体の形をつくっていかねばなりません。偉大なるリーダーには2つの特徴があります。一つ目は、強い決意、絶対にあきらめないで自分になりたい像を追い求め、成功のために必要なツールを手に入れ続けること、二つ目は、自分が全ての答えを知っていると慢心しないこと、つまり学び続けるということです。



駐日マレーシア大使館
参事官
イスリン イスハック 様

(スピーチより抜粋)

今年度のプログラム参加者のみなさんの笑顔を見ることができ、嬉しく思います。
プログラムを通じて皆さんが様々な知識、体験ができることを非常に羨ましく思います。
皆さんがこう言った知識、体験を通して視野をひろげ、各国にとって、そして世界全体にとって皆さんがより良き市民に成長することを願っています。

在日各国大使館代表、
イオンワンパーセントクラブ
理事長を囲んで記念撮影を
する各国学生



▶ホスト国（日本）の歓迎パフォーマンス



↑歓迎パフォーマンスを披露する日本高校生



↑記念撮影

講義・視察（8月21日・22日・23日）

▶ 基調講演



↑「アジア各国の現状と今後」について講義を受ける学生



↑積極的に手を挙げて質問するインドネシアの学生

▶ 視察・講義



↑「ファイブアデイ」について講義を受ける各国高校生



↑カスミ イース店内にて昼食を選ぶ高校生



↑イオンアグリ牛久農場にて「ほうれん草」について熱心に話を聞く各国高校生



↑大根の自動田植え機について説明を受ける各国高校生



↑日本および諸外国における栄養・食生活の変遷と慢性疾患との関連についての講義を受ける各国学生



↑講義の後質問をするインドネシア高校生



↑タイの子どもの栄養状態と食物摂取と食環境について講義を受ける各国学生



↑講義の後質問をする日本高校生



↑インドネシアにおける若い女性の栄養課題について講義を受ける各国学生



↑講義の後質問をする中国高校生



↑アジアにおける日本企業の取組みについて講義を受ける各国高校生



↑講義の後質問をするマレーシア高校生

▶ディナーセミナー



↑和食調理器具についての説明



↑料理長に質問をするインドネシア、中国高校生

体験・ヒアリング活動（8月24日）



↑昆布で出汁をとる日本高校生



↑卵焼きをチームでつくる各国高校生



↑できあがった料理をみせる各国高校生



↑記念撮影



↑イオンスタイル碑文谷にてチームに分かれてお客さまや従業員にアンケートをとる各国高校生

ディスカッション・成果発表・表彰式・参加証明書授与（8月25日・26日）

▶ディスカッション



↑発表に備え、チームディスカッションをする各国高校生

▶成果発表



↑Aチームによる「健康と食のアプリケーション」についての発表



↑Bチームによる「スクールファーム」についての発表



↑Cチームによる「ストリートフード意識改造計画」についての発表



↑Dチームによる「生活習慣向上に資するサービス提供会社の起業」についての発表



↑Eチームによる「生活習慣病撲滅プロジェクト」についての発表



↑Fチームによる「生産者と消費者双方の健康意識を高める思索の展開」についての発表



↑審査員

(左上から) A. 公益財団法人ダノン健康栄養財団 専務理事 高野 俊明 様、B. 農林水産省 食料産業局 食文化・市場開拓課 課長補佐 原田 達 様、C. 公益財団法人味の素ファンデーション 専務理事 重宗 之雄 様、D. ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社 取締役 牧野 直子 様、E. ウエルシアホールディングス株式会社 代表取締役会長 池野 隆光 様

▶表彰式



↑1位を獲得し喜びを分かち合う高校生



↑表彰を受ける1位のチーム



↑農林水産省 食料産業局 食文化・市場開拓課 課長補佐 原田 様（写真左から6番目）と記念撮影をする1位のチームメンバー

▶参加証明書授与



↑アジアユースリーダーズ2017 in 東京のプログラム参加証明書を手にイオン1%クラブ理事長（写真中央）と記念撮影する各国高校生代表

▶ホスト国代表生徒への引き継ぎ式



優勝チームの成果発表内容を実践するため、ホスト国である日本高校生へ引き継ぎ式を実施

↑1位の高校生リーダーから成果発表を引き継ぐアジアユースリーダーズホスト国の日本高校生代表

リーダーよりメッセージ



Tianjin Nankai High School

本当に心踊る様な体験になりました。
今回の経験を通じて新しい友人、新しい体験を積むことが出来ました。とても難しい課題がありましたが、その解決策をチームでまとめるのに非常に建設的な時間を過ごすことができました。今回のプログラムでまとめたことを今後も活用していきたいと思います。

フェアウェルパーティー



↑中国



↑インドネシア



↑マレーシア



↑タイ



↑ベトナム

↑各国高校生たちによるパフォーマンス

【12】参加学生の感想（アンケート、インタビューより抜粋）：



今回のプログラムに参加して、異なる文化的背景を持つ他の国々の人たちと交流することによって、みなさんとの接し方について学ぶことができました。また、自国の文化について誇りを持って他の国々の人たちに紹介することも大切だと思いました。チームワークでは、疑問に思ったことをメンバーと話し合うことで、良い結果につながったと思います...

(Tianjin No.100 High School、中国)

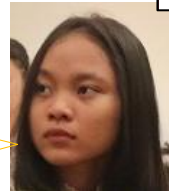


6 カ国から構成されるチームでの活動は、自分の意見を伝える上で良い経験になったと思います。チームメンバーはそれぞれに違った背景があるので、多くの様々な意見交換をすることができました。中国に戻ってからは、もこの経験を友人と共有し、日本で学んだ事を他の交流プログラムに参加する機会があれば、活かしたいです...

(Tianjin New Area Binhai No.1 High School、中国)



食育について多くの事を今回のプログラムで学ぶことができました。1 週間を通して勉強した食生活の現状や問題について家族や友人と共有したいと思います。異なる国々のメンバーで構成されたチームの中で、自分の意見を言うだけでなく、メンバーの意見を聞くこと等、良い経験になったと思います。ディスカッションは大変でしたが、チームとして良い結果が出せたと思います...



(SMA Negeri 105 Jakarta、インドネシア)

参加者がアジア 6 カ国からなので、たくさん友人をつくり、交流できる良い機会だったと思います。プログラムを通して学んだ事をクラスメイトとも話し合ってみようと思います。また、チームか活動は、メンバーとともに一つの課題について解決策をまとめる上で貴重な経験になりました...



(SMA PenaburSummarecon Bekasi、インドネシア)



(金沢泉丘高等学校、日本)

このプログラムに参加して、他の人の意見に耳をかたむけ、何を伝えようとしているのかを理解しようとする事の大切さを学びました。実際にプログラム中に意見を上手く伝えることができない場面がありましたが、チームメンバーは「こういうことを言おうとしているんだよね?」と確認してくれて嬉しかったです。レクチャーが沢山あって多くの事を学んだと思いますが、もう少しレクチャーの合間にディスカッションをする機会があれば、より理解を深めることができたと思います...



英語でのディスカッションでは、自分の考えをチームメンバーに伝えるのがどれほど難しいのかを学ぶ良い経験になりました。また、6 カ国の多様性に富んだチームでのディスカッションの時には、当たり前だと思っていたことが通用しないことがありました。文化的背景を尊重し、相手の意見を理解しようとする等、多くを学んだと思います...

(広島大学附属福山中・高等学校、日本)



チーム活動は、異なる背景を持つメンバーが、意見交換を重ねることで結束力を高めることができたと思います。また、チームディスカッションの経験は、自分を成長させるとともに自信が持てる様になったと思います...

(Sekolah Menengah Kebangsaan Aminuddin Baki、マレーシア)

今回の多国間交流プログラムでは、チームで活動する日が多かったので、リーダーシップを学ぶ良い機会になったと思います。また、チームディスカッションでは、メンバーの意見をなるべく多く聞くことで、色々な考え方があることを知りました。帰国後は、このプログラムで学んだ貴重な経験について家族や友人と共有したいと思います...



(Sultan Ismail College、マレーシア)



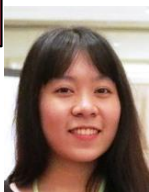
今回の 1 週間のプログラムの中で、食についての様々なレクチャーや体験活動を通じてもっと健康的な食生活を目指そうと思いました。チームでの活動については、特にディスカッションでは、時には妥協しなければ、チームとしての意見をまとめていくことは難しいと感じました...

(Kasetsart University Laboratory school: International Program、タイ)

グループディスカッションを通して感じたことは、それぞれ国も文化も宗教も違うので、同じやり方では通用しないということでした。この 1 週間で友人のネットワーキングをするだけでなく、多くの重要な事を学んだと思います...



(Winchester Collge、タイ)



1 週間の間で、チームワーク、友人をつくること、食育や栄養についてより知識を得ること、そしてリーダーシップについて学ぶことができたと思います。特にチームで意見をまとめる難しさについて良い経験になりました。しかしながら、多くの意見をチームメンバーと言いつつ事なしには、良い解決策を導き出すことはできなかったと思います...

(Tran Hung Dao High School、ベトナム)

チームディスカッションの時は、メンバーに対して意見をいかにわかり易く伝えるかが大事だと思いました。また、他のメンバーの意見を多く聞き、フレキシブルに協調性を持って意見をまとめあげてを学んだと思います。チームで過ごす時間が長かったので、多くの友人をつくることもできました...



(Tay Thanh High School、ベトナム)

どのチームも大変すばらしいプレゼンテーションをしてくれたと思います。そしてせっかく皆さんがお集まりになったので、それぞれの国に帰っても友人関係を続けてほしいと思いますし、また、食べること、健康ということを常に想いながら、それぞれの地域で活躍してほしいと思います。



審査員

池野 隆光 様

ウエルシアホールディングス株式会社 代表取締役会長

以上